

自殺総合対策事業の概要(平成29年度～令和2年度)

事業No.	令和2年度 (新規・継続・拡充)	事業名	事業概要	実績				現状と課題
				平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(1月末現在)	
相談支援事業	1	継続	【現状】 新潟市民病院、新潟大学医歯学総合病院からの紹介が90%以上を占めている。年度が替わるたびに事業説明を行うことで事業が周知されてきており、また、ケース連絡等を通して、関係機関との連携も図られてきている。しかし、継続した専門相談員の確保が難しい。 【課題】 ・本人が支援を希望せず、支援につながらなかったケースのフォロー ・専門相談員の確保	実人数:39名 (うち新規15名) 延相談件数:807件	実人数:47名 (うち新規31名) 延相談件数:987件	実人数:58名 (うち新規33名) 延相談件数:740件	実人数:60名 (うち新規28名) 延相談件数:829件	
	2	継続	【現状】 第3金曜日の定例開催を続けてきたことで事業は定着しつつあり、充足率も徐々に伸びてきている。本事業の情報入手手段としては、利用者へのアンケートでは「チラシ」と「市報」という回答が多い。 【課題】 利用者の年代・地域に偏りがある。働き盛り世代の方をより多く相談支援につなげるため、周知先の拡大を図る。また、開催場所や時間についても、適当か検討する必要がある。	開催回数:14回 延相談人数:88名	開催回数:14回 延相談人数:88名	開催回数:14回 延相談人数:96名	開催回数:10回 延相談人数:70名 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため1回中止した。また経営相談に対応するため新潟IPC財団の従事を9、3月に追加した。	
	3	継続	【現状】 平日の日中に相談することが困難な市民を対象に、平日の夜間や休日に電話相談を実施	延件数:9,324件	延件数:15,067件	延件数:11,923件	延件数:5,985件	
	4	継続	【現状】 深夜等の時間帯に、業者委託の電話相談を実施(こころの健康センター、こころといのちのホットラインと合わせ、24時間365日体制の電話相談となる。)平成29年度～回線を1回線から2回線に増設	延件数:2,632件	延件数:2,422件	延件数:2,503件	延件数:2,028件	
事業推進体制	5	継続	【現状】 自殺防止対策に関わる関係機関・団体等で構成する自殺対策協議会を設置し、自殺総合対策の推進を図る。	開催回数:1回 出席委員数:15名	開催回数:3回 出席委員数:51名	開催回数:1回 出席委員数:18名	開催回数:1回 出席委員数:14名	
	6	新規	【現状】 若年層における自殺対策協議会作業部会(平成27～30年度)において、大学生を対象とした事業の検討をしてきたが、教育委員会等の学校関係者と連携して取り組みを進めていくことが課題となっていた。そこで、ワーキングチームでは小・中・高校などの児童生徒の自殺対策について、教育委員会等と連携を図りながら、具体的な取り組みを検討していく。	—	—	—	開催回数:3回 出席委員数:9名	
	7	継続	【現状】 第2次行動計画に従い、自殺対策事業を実施。 【課題】 これまでの取り組みを踏まえ、委員の構成や会議の在り方などを検討していく必要がある。	—	開催回数:1回 出席委員数:32名	—	開催回数:1回 開催方法:書面会議	
	8	継続	【現状】 自殺予防対策に取り組む関係機関・団体との連携を強化し、顔の見えるネットワークを構築するとともに、協働できる事業について企画・検討等を行う。	開催回数:5回 参加者数:73名	開催回数:5回 参加者数:61名	開催回数:5回 参加者数:64名	開催回数:4回(Web会議) 参加者数:39名	

自殺総合対策事業の概要(平成29年度～令和2年度)

事業No.	令和2年度(新規・継続・拡充)	事業名	事業概要	実績				現状と課題	
				平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(1月末現在)		
人材育成事業	9	継続	自殺予防ゲートキーパー養成研修会	ゲートキーパー養成研修会として ・市民向けの研修会 ・大学生向けの研修会 ・教職員向けの研修会(教育委員会と連携) ・若年層の支援者向け研修会 等を実施	大学生及び養護教諭向け:1回 参加者数:18名 教職員向け:2回 参加者数:123人	≪自殺予防のためのゲートキーパー養成テキストを活用した研修会≫ 薬剤師向け:3回 保健師向け:1回 多職種向け:2回 その他:2回 参加者数:延168名	≪自殺予防のためのゲートキーパー養成テキストを活用した研修会≫ 薬剤師向け:1回 保健師、ケースワーカー向け:3回 多職種向け:2回 その他:4回 参加者数:延180名	≪自殺予防のためのゲートキーパーテキストを活用した研修会≫ 保健師、ケースワーカー向け:3回 県立高校教員向け:4回 参加者数:延143名	【現状】 自殺予防のゲートキーパー養成研修テキストを作成し、様々な職種・支援者を対象とした研修会を実施している。 【課題】 ・教育委員会と連携した取り組みの検討 ・様々な職種を対象とした研修の実施
	10	継続	自殺対策研修会(医療・福祉関係者向け)	医療・福祉関係者を対象に、自殺防止に関する知識の普及と地域のネットワークの構築を目的に研修会を実施する。	開催回数:1回 参加者数:82名 講演テーマ: パーソナリティ障害、発達障害などで感情調整が困難な人の自殺、自傷行動の理解と支援	開催回数:1回 参加者数:123名 講演テーマ: 妊産婦の自殺予防と産後うつについて	開催回数:1回 参加者数:79名 講演テーマ: ギャンブルが破滅をもたらす時—ギャンブル依存症と自殺	開催予定日:2月27日 講演テーマ: うつ蔓延社会をうつ円満社会へへ生きる力がわいてくるメッセージ	【現状】 毎年テーマを決めて実施している。今後も、医療・福祉関係者が持つ共通の課題や連携強化等をテーマとし、研修会を継続していく。
	11	継続	庁内職員向け研修会	市の窓口担当職員を対象に、自殺のリスクの高い人と接する際の「気づき」や「接し方」等について知識向上を図るため、研修会を実施する。	≪市窓口担当者等向け研修会≫ 回数:1回 参加者数:16名 講義テーマ: うつ病や自殺のリスクのある母とその子どもへの接し方 グループワーク	≪市窓口担当者等向け研修会≫ 回数:1回 参加者数:28名 講義テーマ: 自殺予防のためのゲートキーパーの基本対応 グループワーク	≪市窓口担当者等向け研修会≫ 回数:2回 参加者数:32名 講義テーマ: 【基礎編】自殺の基礎知識 【応用編】ゲートキーパーについて グループワーク	≪庁内職員向け自殺予防ゲートキーパー研修会≫ 回数:1回 参加者数:34名 講義テーマ: ・自殺予防ゲートキーパーについて ・つなぎ先について学ぶ	【現状】 研修会を通じて、市民と接する庁内職員がゲートキーパーになれるよう研修会を実施。今後もテーマを考え、継続して実施していく。
	12	継続	10代の若者の生きづらさを考える支援者向け勉強会	若年層対策について、現状や問題意識を共有し、それぞれの価値観を理解するとともに、それぞれの関係機関・団体における強みを認識し、支援者同士のネットワークの構築を図るため、若者の支援者向けに研修会を実施する。	回数:2回(主催) 第1回:県弁護士会 第2回:市業剤師会 参加者数:132名	回数:3回(主催) 第1回:県弁護士会 第2回:新潟市 第3回:市業剤師会 参加者数:200名	回数:1回(主催) 第1回:市業剤師会 参加者数:80名 ※新潟市主催の研修会を企画したが新型コロナウイルス感染症拡大防止等の理由により中止	3月開催予定	【現状】 自殺対策実務者ネットワーク会議のメンバーからプロジェクトチームを作り、若年層対策について検討した結果、支援者がそれぞれの強みを活かして連携して活動できるよう、ネットワークづくりに重点を置き、若年層対策に関する研修会を実施している。 【課題】 平成29～令和元年度は若年層への支援をテーマに支援者のネットワークづくりに取り組んできたが、これまでの活動や社会の動きを踏まえ、今後のテーマや次の活動内容を検討、実施していく。
普及啓発事業	13	継続	自殺防止街頭キャンペーン	広く市民に自殺予防について啓発するため、自殺予防の啓発グッズの配布や相談窓口の周知を図る。 配布場所:新潟駅(万代口)前広場	1,000セット配布	1,000セット配布	742セット配布	新型コロナウイルス感染症拡大防止等のため、新潟駅前広場での活動を中止し、NEXT21アトリウムにてパネルの展示と机上に啓発グッズを設置	【現状】 自殺防止について、市民に対して広く周知するため、平成21年度から継続して実施している。 【課題】 市民に対してどのようなメッセージを発信していくのか、検討していく必要がある。
民間団体補助	14	継続	いのちの電話補助金	自殺予防を目的に活動している「新潟いのちの電話」の運営費の一部を補助する。	同左	同左	同左	同左	【現状】 電話相事業を継続して実施するため、運営費の一部を補助している。